

「文化」とは、「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果」だと広辞苑には記されています。狭義には、学問や芸術・芸能、宗教など精神的活動とそこから生み出されたものを指すと言えるでしょう。物質的な豊かさ(=便利さなど)をもたらすものを「文明」と呼び、文化とは区別する場合もあるようです。日々の生活に直接役に立つわけではありませんが、音楽のように心を豊かにし、精神を支えてくれるものが文化であり、それらを取り上げるページ「文化面」が充実しているのも、朝日新聞の特徴です。

朝日新聞の文化面は美術、音楽、演劇、映画、文学、思想など多様なジャンルを扱っており、それぞれの分野のニュースや話題を積極的に紹介しています。専門家による質の高い評論も読みごたえ十分です。いま何がはやっていて、どんなムーブメント(動き)が起きているのか。それを解き明かしているのがこのページです。芸能やテレビといった「いまどき」のテーマが取り上げられることもありますので、社会の流行や風潮などを知り、時代に乗り遅れないためにも、しっかりと読んでおきたいものです。

月曜日の文化面は、文化の世界への入門編となる「文化の扉」という1ページの特集記事で、著名な人物や時代など、毎回テーマを決めてやさしく解説します。この春以降も、「はじめての歌舞伎」「戦下手じゃなかった? 石田三成」「人種差別主義者だった? リンカーン」「はじめての向田邦子」などが特集されました。

ところで、新聞の特徴的な文化である連載小説は、朝日新聞では1879(明治12)年に始まりました。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)